

おおいたの ねんど人形写真館 第2回 **ねんど阿弥陀様**



ねんど人形写真作家
渡邊和己さん

おおいた終活フェアの Mascot キャラクター・ねんど阿弥陀様の制作工程をご紹介します。①完成予想イラストを描きます ②予想イラストでイメージした色のねんどを作ります ③④頭部を制作 ⑤⑥手足や胴体などのパーツを制作 ⑦頭部とパーツを仮組み ⑧ねんどと竹ひごを使い後光の制作 ⑨土台となる蓮の花の組み立て ⑩光背の制作し、全てのパーツを合体させて完成。制作期間3ヶ月。優しく温かい表情の阿弥陀様ができました。



和顔愛語 de 縁つなぎ

おおいた
終活
フェア
2019



『郷土の語りをみんなで聞くことも終活です！』

『おおいた終活フェア 2019』を主催した株式会社ファイン 判田台会館・備庵の茶屋元(社会福祉士)です。今回、郷土の語り部コーナーをお願いした理由は、『和顔愛語』というイベントテーマと語り部の話を聞くことがとてもマッチしていると思ったからです。シニア世代の方がみんなで集まって、一緒に楽しい話を聞いて笑ったり、民話や神話を懐かしんだり、同世代で頑張っている人を見て元気になったり、同じ空間で色んな体験を共有することは、社会との繋がりをもつことであり、それも大切な終活だと思っています。少子高齢化で家族や社会との関わりが希薄になっている今の時代こそ、集い語り合うことはより大切だと思います。私自身も語り部の話をこれからも聞いていきたいなと思いました。



判田台会館・備庵
社会福祉士
ちやもと たかゆき
茶屋元崇喜

大分の語り部とは？
大分の文化を子ども達に語り継ぐオウンドメディア。カボスひろしが編集長を務め、隔月発行のこのフリーペーパーをはじめ、WEB サイトやYouTube 動画も活用し、アナログとデジタルをミックスさせて情報を発信しています。

カボスの編集後記
2019 年もあとわずか。時が経つにつれて、今は昔に歴史になっていきます。歴史のバトンを未来につなぐ『大分の語り部』を来年もよろしく願っています。

大分の語り部 vol.05

発行日：2019 年 12 月 1 日 (日)
制 作：Cabooosu (カボス)
編集長：カボスひろし (大分県産タレント)
WEB：https://www.oita.link/



大分と世界 & 未来をつなぐオウンドメディア これ一冊であなたも“大分の語り部”

OITA NO KATARIBE

大分の語り部
vol.05
2019.12



郷土の語り部大集合

終活を語る

語り部たちが終活を語る！終活フェア 2019 特集号

2019 年 11 月 6 日に、J:COM ホルトホール大分の大ホールにて開催された『おおいた終活フェア 2019 (主催：株式会社ファイン)』。社会福祉士リレートークやお元気シニアのパフォーマンスなど、終活をテーマにした様々なアトラクションがステージで展開される中、『郷土の語り部大集合』コーナーに 4 人の語り部が登場。県南落語組合会長の矢野大和さんが名調子で楽しく終活を語れば、吉四六話の語り部である広田美茶子さんは終活にまつわる吉四六話を絵説きで語り、臼杵妖怪話の語り部の古谷美和さんは、臼杵で伝わる火の玉を食べた男の数奇な運命を語りました。ねんど人形写真作家の渡邊和己さんは同イベントの Mascot キャラクターである、ねんど阿弥陀様の制作秘話を語り、佐賀関に伝わる鬼八伝説のねんど人形映像が流れました。人生の終わりについて、大分県民が語り継いできたことが凝縮された『おおいた終活フェア 2019』の郷土の語り部大集合コーナーを特集します。(カボスひろし編集長)



¥0 TAKE FREE ご自由にお取りください

次号は 2020 年 1 月 1 日発行

ご自由にお取りください

おおいた終活フェア2019 郷土の語り部大集合レポート

人生の終盤を迎えるにあたってどんな心構えでどんな行動が必要なのか。
大分県で語り継がれてきた終活の話が様々な切り口で終活フェアで語られました。



県南落語組合 会長
矢野大和

年寄りと野菜は こえかけが大切

このごろ年のせいで耳が遠くなったなあという方はいますか？手をあげてください。ありがとうございます。今、手をあげた方は、大丈夫です。何も心配いりません。聞こえています。

今日は笑おうかな。笑うと元気になるけん。女性の方が長生きするじゃないですか。その理由は男性よりも、女性の方がよく笑いよく話すからです。人間は声をかけると元気になる。無視されることが一番つらいの…。年寄りと野菜は一緒なの。

こえかけ（声かけ・肥かけ）が大切。

まず家族に挨拶です。おはよう！と声かけ合うだけでも元気になる。夫婦の間でも、ちゃんと感謝の言葉を伝えるのが大切。言わんと分かんと思っているのが女性、言わなくても分かると思っているのが男性。今日から変えていきましょう！間違っても旦那さんは、「おーいお茶！」とか奥さんに言わないでくださいね。「おーいお茶・・・、入れようか？」と言ってみてください。

奥さんが美容院で髪型を変えた時も「よう似合っちゃる！」と言いましょう。相手を評価したら相手も気持ちがいい。間違ってもこんなこと言わないでください。「どうしたんかその髪は、法事でもあるんか」とか。また、奥さんが新しい服を着た時も「よう似合っちゃる！」ですよ。間違っても、「なんぼしたんか、その服は」「お前、ようそんなお金もっちゃったな」とか言わないでください。人はコミュニケーションで元気になる。会話の量に比例して、仲良くなって元気になる。しゃべること笑うこと。今日はそういうテーマの話をしますので、大きな声で笑ってください。

気が効き過ぎじゃ

吉四六さんが日頃お世話になっちょる庄屋さんが病気で倒れてしもうた。近所んしいがお見舞いに駆けつける中、吉四六さんはお見舞いに行くのが一番遅くなった。庄屋さんから遅くなった理由を尋ねられると「庄屋さんのために隣町まで医者に頼みに行っちゃったんじゃ」と答え、気が効くなあと庄屋さんから褒められた吉四六さん。しばらく日が経って、またお見舞いに行った時に「今度は何しよったん？」と尋ねられ、「庄屋さんが死にそうじゃったけん、和尚さんとか棺桶の用意をしよったんじゃ」と吉四六さん。

創作絵説き吉四六語り
広田美茶子



火の玉を食った男

江戸時代の臼杵のある商店に、へいえもんさんが住み込みで働いちゃった。ある夜、「蔵の中にある赤い箱を持ってきちょくれ！」と女将さんから命じられたへいえもんさん。真っ暗な蔵の中から、行燈も持たずにスツとすぐに赤い箱を持ってきた。真っ暗なのになんでそげえ早く持ってきたん？と尋ねられ「実は、この前、火の玉を食べてしもうて、それ以来、夜でも昼のようによく見えるんじゃ」と答えたへいえもんさん。周りの人は気味悪がり、へいえもんさんは仕事をクビになりました。しょうがないんで、へいえもんさんは泥棒になり盗みを繰り返しましたが、やがて捕まり、処刑されました。わけのわからんもんは食ったらいけんことじゃな。

臼杵妖怪話
古谷美和

